

発達の見かた



津 守 真

人間の発達をどのように見るかということが、教育の考え方や方法をきめていくように思う。私は発達をどのように考えて、いるかを次に述べる。

1 私が子どもの行動を見たり聞いたりするとき、そこで知覚しているものがすべてではなく、それは、私に直接見えていない子どもの世界の表現であると考ええる。

だから、どんなにこまかく、見聞きしたことを記述したとしても、そこで起こっていることがわかるとはかぎらない。そこで見聞きしているものは、子どもの中に生じていることの、ある側面があらわれたものとして見ると、わかってくるのがたくさんある。

2 自分が子どもと共に動き、共に遊び、共にそばに居るとき、そこで感じとることが出来るものがある。それはそこで動いているものの全体に関連するものともいえる。おとなが自分の概念や意図をすてて、子どもと共に身をおくとき、そこで感じることのできるものは、少なくとも子どもの中に生じていることの重要な部分であると考えてよい。それがどれだけ、そこで生じていることの中心にふれることができるかは、おとなの側の修練による。いずれにせよ、そこでは子どもとおとなとはある感じ方を共有し、そこから次の行為が生まれる。

3 おとなが自分の幼少時代にいつも立ちもどって、そこから

発達を考えていくことは、発達の理解にとって重要である。過去を考えるとということは、過去に固着することではない。過去は思い起こすたびに新たに成り、過去には気付かなかつたことが、後になって新たに気付かされる。自分自身の発達をみつめるとき、人間にとって価値あるものにいきあたることを可能にする。いまでもありありと目に浮かぶような過去は、発達にとって重要なものをふくんでいないか。他人の発達は、自分自身の発達と関係がないという考えからは、機械論的な発達の見方が生まれやすい。

4 生きた人間と出会うことは、思いもよらないことに出会うことである。予測どおりにいかず、計画のように運ばず、怒り、悲しみ、喜ぶのは、自分も生きており、他人も生きていることの証拠である。意外であり、偶然とみえることがらに、深い意味がかくされていることが多い。生きた人間の発達には、偶然が大きな要素である。それをどう受けとるか、そこに何を発見するかが人間の課題である。

5 子どもの行為にふれて考えさせられることは、おとなにも共通の、人間世界の意味にふれることが多い。どうしてよいか

わからないで泣きわめく子ども——おとなにも混沌として糸口のつかめない状態がある。自分のしたいことがありながら、それが見いだせないでおとなにつきまとう子ども——おとなでも、家族や先輩、神にうるさくつきまとうことは多い。そういうときには、人はどうやって自分の道を見いだすようになるだろうか。

ありの穴の中には、ご殿があり、食堂もあって、世界の真中にまでつながっているといつてありの穴に枝をつっこむ子ども、くもは糸一本だけで島にいけるのもいるんだよ、といつてくもの巣に見入る子ども、など——子どもは、ありの穴、くもの巣を通して、他の世界への入口を見ている。おとなは目に見たものだけしか信用しない、だからだんだんに世界観が貧弱になる。子どもの見方に教えられて、ありの穴、くもの巣の意味を考へることができ、忘れた世界をとりもどすことができるのである。子どもは私どもに、多くのことを考えさせてくれる。子どもと共にいる人は、宝の倉にいるようなものである。一日子どもと共に過ごせば、一生かかっても考えきれない多くの材料がそこにある。

6 発達をどう見るかにより、教育のあり方が違ってくる。発

達の見方を養うことが、指導法そのものよりずっと重要といえる。長年にわたって子どもの成長をみたとき、そのことは一層明瞭になる。見方が養われると、指導法はそこから生まれてくる。

子どものしていることを直接に見たところでだけしかとらえないのではなくて、おとなの目には見えず、気付かれていない世界がその底にあることを前提とせねばならないと思う。子どもという神秘的な存在、未知なるものを多くもつ存在に対するおそれを感じずにいられない。いま気が付いていない世界のあることに気付き、そこからの声に耳を傾け、そのあらわれである表現に目を開くことがたいせつなのだと思う。子どもはそれをやっているのだ。現代に住む私共は、あまりにも自分にとらわれた狭い世界に住んでいる。

幼児の教育 第七十一巻 第十一号

十一月号 定価一〇〇円

昭和四十七年十月二十五日印刷
昭和四十七年十一月一日発行

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行者

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村一ノ一

印刷所 凸版印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所
所フレーベル館にお願いいたします